

『森林の見える木材ガイド』(国際環境NGO FoE Japan/財団法人地球・人間環境フォーラム)



てくれるでしょう。最初は食事に行きたいからでもいいんです。結果的に省エネになれば……」

——消費者へのひと言を

「現在、ガソリンや食品の値段が上がったとマイナス面のみが取りざたされていますが、今こそ自分や家庭の適量を考えてスリム化を実現するチャンスです。有限な地球に生活する者として、この機会に改めてご自身の生活を見つめ直してほしいですね」



## 「違法伐採された木材」製品を買わないという選択

### フェアウッド・キャンペーン

私たちはさまざまなかたちで木材を利用しながら生活しています。住宅や家具のほか多くの紙類が木材を使って作られています。しかし、木材の自給率は約二割と低く、日本は世界有数の木材・木材製品の消費国であり、輸入国となっています。

一方、世界の森林は刻々と減少し、また劣化しています。減少・劣化の原因には大規模な農地への転用、非伝統的な焼き畑の増加、燃料用木材の過剰な採取、森林火災などが挙げられます。そして、こうした深刻な原因を誘発するものとして違法伐採の問題が指摘されています。

違法伐採とは、一般的にはそれぞれの国、地域の法令に違反して森林を伐採することです。その典型は、地方自治体や国が所有する森林を無許可で伐採することですが、許可された伐採量、樹種、伐採方法を守らない場合も違法伐採になります。

また、先住民族などの伝統的な権利の保護、伐採労働者の安全衛生上の問題も指摘されています。インドネシアでは伐採量の約五割、ロシアでは約二割が違法伐採されているとの調査結果もあります。さらに、違法伐採された木材が書類などを偽造して取引することによって海外にも輸出されているという現実もあります。

違法伐採の問題に目をつぶり、安価であるという理由だけで木材を買い続ければ違法伐採を助長す

■フェアウッド・キャンペーンと森林認証のロゴマーク



ることになります。

政府では、違法伐採対策として○六年から国などが調達する木材

・木材製品については、「合法性」「持続可能性」が証明されたものとする措置をとっています。しかし国などが調達する木材の市場シェアは約2%で、それだけで大きな効果は期待できません。

そこで、消費者が紙・木材製品を購入する際に、違法伐採された木材を買わないようにすることが重要になってきます。

紙・木材製品を販売する事業者に違法伐採された木材を使用してないか聞く、右のような森林認証マークを確認するなどの方法で

違法伐採でないことを確認できません。

国際的な森林認証制度としてはFSC、PEFCがあります。日本独自のものとしてはSGEC(緑の循環認証会議)があります。いずれも森林が適切に管理されていることを第三者が認証する制度で、認証された森林から生産される木材にはロゴマークがついています。これらの取り組みを環境NGOがフェアウッド・キャンペーンとして応援しています。世界の森林を守るためには、「違法伐採された木材」を購入しないという選択が必要です。

さて、CO<sub>2</sub>排出削減のヒントは見つかりましたでしょうか？日本消費者協会が行った消費者モニターアンケート調査(○八年五月実施)では、家庭でのCO<sub>2</sub>排出削減への取り組みについて、「電気製品をなるべく使わない」「車の利用を控える」「ゴミをなるべく出さない」といった実践例が多く挙げられました。身近なところから始めて無理をし過ぎない——その積み重ねがマイナス6%につながるというのでしょう。